

あなたもチャレンジ！ 家庭菜園

病害虫の防除と農薬の上手な使い方

板木技術士事務所 ● 板木利隆

病害虫の発生を抑え、健全な野菜を育てるために必要な事項は、(1) 病害虫の発生源、感染源を少なくする＝これらの生育場所となる周辺雑草を退治し、野菜の残りかすを丁寧に始末する。(2) 病害虫を受け付けにくい健康な体の野菜を作る＝適期まき、適期植で株間を十分に採光、通風を良くし、肥切れさせない。(3) 病害虫の感染、飛来を、資材や混・間作、輪栽で回避する＝防虫ネットやべた掛け資材被覆、反射フィルムの利用、麦や陸稲を間作して障壁を作る。対抗植物との輪栽（ネマトーダにマリーゴールド、エン麦、ハブ草）、コンパニオンプランツ、共栄植物との近接栽植（トマト、ニラ、ウリ類とネギ）などによる対応。(4) 被害の早期発見に努め、機を逸さないで有効な農薬を上手に散布する、などです。

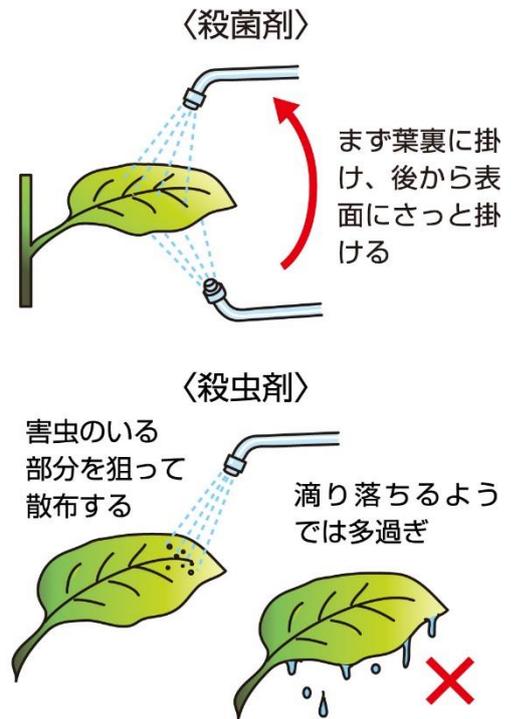
農薬を有効に利用するに当たって大切なことは、病害虫は畑全体に一齐に出るものではなく、初めは部分的に、特定の株や部位に出て、それが何日かすると急に広がってくるので、初期発生の発見に努め、この段階でいち早く局所を重点的に薬剤散布することが肝心です。そうすることによって薬剤の使用回数、量を大幅に節減することが可能です。

発生した病害虫の種類をよく調べ、あるいは専門技術者に判定してもらい、適正な薬剤を求めますが、薬剤により作物ごとの使用濃度、使用可能な回数、収穫の何日前まで使用できるか、他剤との混用の可否などが異なるので、説明書をよく読んで、間違えないよう、十分注意して使用してください。

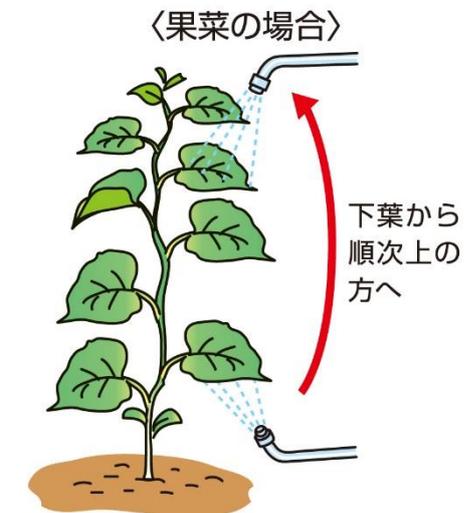
水和剤、乳剤は必要な水量に薬剤を入れ、展着剤を加え、よく攪拌（かくはん）して用います。必要量は野菜の種類、生育段階により大きく異なりますが、生育盛りのキュウリ、トマトでは1株当たり100～200ml、キャベツ、ハクサイでは約30～50mlぐらいと考えてよいでしょう。

散布に当たっては噴霧機の圧力を十分にかけ、害虫では寄生部、病害では病斑が出始めているところ、雨により土がはね上がりやすい下葉の裏などを重点的に掛けます。初め噴霧口を上向きにして下葉の裏に掛け、次第に上葉に向かい、最後に全体の葉の表面にさっと掛けて仕上がりです。細かい霧が葉の全面に付くのがよく、滴り落ちるのは多過ぎで細部によく付着しません。

薬剤別のポイント



作物別のポイント



〈葉根菜の場合〉

